

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 3月 24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホームあいりん		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷 910-10 番地		
自己評価作成日	平成 24年 1月 3日	評価結果市町受理日	平成 24年 3月 29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 1階
訪問調査日	平成 24年 3月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『心と心のつながりを、人と人のふれあいを大切に』の基本理念に基づき、職員は利用者とその家族、地域の方々とのつながりを大切に、利用者がその人らしく地域の中で楽しく、安心して暮らしていけるよう、笑顔の絶えない安らぎのある日々を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、近隣にスーパーや保育園・小学校があり環境的に恵まれた場所に位置し、また同建物内にデイサービス事業所が併設され、利用者は日常的に、友人・知人と交流できる環境にある。採光にも配慮した居心地の良いホームでは、利用者を人生の先輩として敬う職員一人ひとりの質の高い支援に支えられ、利用者は、おしなべて表情豊かである。

運営する経営者は、他に数ヶ所の介護事業所も経営し、地域福祉向上のため、地域交流事業を主催するほか地域の行事にも積極的に参加している。

職員も利用者家族に代わり、利用者入院時の洗濯等の支援、全事業所あがての利用者、家族、職員での島外へのリフレッシュ旅行を実施するなど、経営者・職員はホーム運営に対し常に工夫している。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>朝夕の申し送りやミーティングを通して理念を確認し合いながら、日々のケアの中で自然に実践できるように取り組んでいる。</p>	<p>会社理念とは別に、管理者・職員が考え設定した月目標を全職員が共有し、実践を通して個々に自己評価している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の中のホームづくりを目標に掲げ、地域と共に歩み、日頃の挨拶は勿論、地域の行事への参加など、地域の方々との交流を重視した活動を展開している。</p>	<p>日常的に利用者が地域の中に入っていけるように事業所を民家として近所づきあいができる支援をしているほか、小学校行事等地域行事への積極的な参加を行っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>積極的にボランティア、見学者の受け入れ、交流等を通じて行っている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行政関係者、ご家族、民生委員、管理者、職員で構成されており、意見交換などが行われている。会議で出された意見についてはミーティングを開いてサービスの向上に生かしている。</p>	<p>23年度の開催は3月に予定している。</p>	<p>参加メンバーを警察・消防署、学校等公的機関にも拡大した呼び掛けに努め、会議の開催・充実に繋げることに期待したい。</p>
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町の担当者とは定期的に行き来をし意見交換したり、ホームの運営に関わる助言をもらう等、連携をとっている。</p>	<p>町の担当者とは手続きなどを通じた公的な連携を主としており、他に地域包括センター主催の研修会で情報交換の取り組みもしている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室や玄関に鍵をかける事の弊害を十分に理解し、目配り、気配りで見守りを行い、利用者ひとりひとりの行動パターンを把握し見守りのケアを重視している。</p>	<p>言葉による拘束にも気を付けている。またヒヤリハットの記録を職員間で共有し、検討したことはミーティング記録に残し、気づきはその都度伝える環境づくりを目指している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、ミーティングなどで注意、確認し合い、暴力は勿論のこと意識していない部分での言葉かけも虐待になってないかお互い注意しあっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修で学ぶ機会を持っているが、今のところ必要な利用者はいない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者はケアマネージャーと連携しながら、家族・利用者を変えて十分に説明、意見交換を行い理解・同意を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来館時にはコミュニケーションを積極的にとり、日頃から意見を言いやすい雰囲気づくりに努めたり、玄関に意見箱を設置し、それによって得られた意見を会議や連絡ノートで共有し改善に取り組んでいる。</p>	<p>利用者との面会后、家族の帰宅を見送る時、家族の気づきや利用者の要望など伝えていただく機会が多く、何でも話してもらえる場面作りや雰囲気作りの工夫もしている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が意見を言いやすいように個別面談があり、全体会議やミーティングでの話し合いにつなげている。</p>	<p>管理者と職員は会話を密にしており意思疎通が図られている。職員は、日々気づいたことを連絡帳に記し管理者・職員で協議を行い、接遇や施設整備等運営に反映させている。</p>	

12	<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員の生活や現状をふまえた職場環境づくりが行われている。		
13	<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修に参加する機会を確保し、資格の取得も積極的に行っている。		
14	<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	研究会や交流会などで意見交換を行い、互いの施設見学も積極的に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用者や家族が話しやすい環境である自宅に訪問し意見や要望を聞いたり、ホームの見学や体験利用をして安心感を持って頂いている。		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	自宅訪問やホームの見学などを積極的に行い、コミュニケーションを多くとるようにしている。		
17	<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者・家族・ケアマネ・管理者で不安や疑問点があれば安心、納得して頂けるまで話し合うよう努めている。		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者は目上の立場であり尊敬の意を持って接するよう心がけている。いつも心に寄り添って互いに信頼しあえる関係づくりに努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族とのコミュニケーションを十分にはかり、信頼関係を築くように努めている。利用者が安心して生活できる環境づくりを家族と共に考え実行している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>利用者や家族の希望があれば積極的に外出の支援をしている。また、親戚や地域の方からの差し入れがあればお礼の葉書を郵送し関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者はデイサービスの利用者との交流や散歩時に友人宅に立ち寄ることもある。お盆・正月には職員が自宅へ送迎する支援を行い、これまでの関係継続を大切にしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は利用者ひとりひとりの性格を把握し、利用者同士が円滑に交流を持てるよう、職員が間に入りコミュニケーションをはかっている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も関係が途切れないうちに、お盆やお正月には挨拶に回ったり、会社の広報誌など送付している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>普段の会話の中でさりげなく聞き出したり、表情や言葉からも気持ちを察している。また、家族にも協力を得ている。</p>	<p>職員はアセスメントを通して利用者の暮らし方の希望を把握し、利用者との会話の中で思いや意向の把握につなげている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>普段の会話やコミュニケーションを深めることにより、利用者自身について知る機会を多く持ち、その思いを受け止めるよう努力している。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>観察の必要性を大切にし、利用者の様子の変化に気付くよう、普段の状況把握に努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の要望を聞き入れ、定期的にケース会議を行っている。</p>	<p>本人や家族の意向を反映させた介護計画を実践する中で、毎月管理者・全職員でケース会議を開き、状態の変化に応じた支援を目指している。</p>	
27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者も毎日の状況や職員の気づきなど個別に記録し、毎日の引き継ぎで情報共有しており、定期的に見直している。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>会社内の他事業所と連携を取り、状況に応じた対応ができるようにしている。</p>		
29	<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の各種施設や学校、ボランティアなど利用者が関わる事のできる資源と一緒に見つけ出し充実した生活ができるよう努めている。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>契約時に利用者家族の了承を得てホームの協力医をお願いしている。</p>	<p>血压手帳を持参して確認印をもらうなど利用者の日々の健康管理につながる支援もしており、かかりつけ医の交代時には病歴等について、院内の地域連携室を通して情報提供し、適切な医療受診の支援につなげている。</p>	

31	<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>デイサービスの看護師と連携をとり、相談・助言を受けている。また、受診機関の看護師とも連携・相談している。</p>		
32	<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期退院のため、家族や主治医と話し合い、協力できる体制づくりに努めている。また、職員はこまめに病室に訪れ、利用者の状態の把握、医師、看護師と連携に努めている。</p>		
33	12 <p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は、家族、主治医と話し合い、事業所全体で支援するよう取り組んでいる。</p>	<p>ターミナルケアでは可能な限りホームで看て、医療関係者と連携した中で、その人にあつた対応とその都度の話し合いで利用者や家族の安心につなげている。ホームで看取る場合の体制作りはできている。</p>	
34	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体会議やミーティングで対応についての確認をしている。緊急時の対応もスムーズに行っている。</p>		
35	13 <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防署立会いのもと、消防訓練を実施しており、消防署主催の研修にも参加している。また、訓練時には近隣住民の協力も得られるよう声掛けている。</p>	<p>火災予防を考慮してオール電化にしている。スプリンクラーの設置も完了したところである。近隣の介護老人福祉施設を緊急避難場所とした連携体制も取っている。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者は人生の先輩であるということ を頭の中に入れ、常に尊敬の意を持ってさりげなく温かい言葉かけに心がけている。	自分たちがされて嫌なことはしない、言わないなど、尊厳のある接し方を心がけている。特におむつ交換時には羞恥心に配慮したケアをすることで利用者に安堵感を持ってもらうようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりや会話の中で、思いや気持ちをくみとり、本人のペースに合わせている。職員はあせらず、心のゆとりを持って支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者ひとりひとりの性格や行動パターンを把握し一緒に考えながら、その人に合ったペースで支援するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて、行きつけの美容院に行ったり、一緒に服を買いに行っている。着替える際の服選びも一緒に行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな音楽を流したり、会話などで雰囲気づくりをしている。利用者の食べたい物を献立に入れたり、一緒に味付けや下ごしらえも行っている。	献立は利用者の要望や差し入れにより柔軟に変更している。また利用者にも野菜・魚の下準備をしてもらっている。自宅で食べられなかった物も調理の工夫で食べられるようになった利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの残食や水分摂取量をチェックし、それぞれに応じた量や形態、味付けを支援している。		

42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、それぞれに合わせた口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表をつくり、ひとりひとりの排泄パターンを把握し、オムツ、尿パットをなるべく使わないようトイレ誘導している。</p>	<p>チェック表や排泄のサインを察知して、早めに声かけを行い、トイレ誘導を行っている。排泄行為として自分でできることは自分でもらっている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食生活の工夫、水分摂取、適度な運動、腹部マッサージなど行い、自然排便に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の希望や状態に合わせて、温度の長さを調整している。また、職員が1対1で対応することでコミュニケーションを大切にしている。</p>	<p>拒否者はなく、毎日入浴を行っている。入浴時はコミュニケーションを大事にし、利用者の身体的変化の観察や健康状態の把握に努めている。また入浴後のお茶やジュースが楽しめる支援を行っている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の安眠に繋がるよう、日中は散歩や日光浴、運動を促している。また、自宅で使っていた布団など使い慣れたもので心地よく休んで頂けるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効能だけでなく副作用まで把握し、服薬後の体調も気をつけている。また、薬をきちんと飲み込んだかまでの確認も行っている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの得意分野、残存能力を生かした活動を支援している。また、気分転換になるよう外出や地域に行事に出かけている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者や家族の希望に基づき支援を行っている。</p>	<p>買い物や公園へ弁当を持って出かけるなど、できるだけ戸外へ出かける機会を作り支援し利用者の日々の環境を変える取り組みを支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各自の経済状況や能力に応じて支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話の取り次ぎや、本人からの希望があれば、電話をかけたり、手紙の代筆の支援を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>こまめに換気したり、温度、湿度、光の調整を行っている。また、季節ごとに居室やリビングなどの飾りも行っている。</p>	<p>採光や温湿度も快適に工夫されている。職員も落ち着いた行動・所作で安心感を与えている。またソファのあるリビングでは利用者同士が集まって和やかに会話をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファにおいては座る場所に配慮し、トラブルがないよう努めている。1人になりたい時は居室で過ごしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたなじみの物や思い出の品を置いたり、写真を飾ったりして居心地のよい空間づくりに努めている。	利用者が思い思いの工夫で自分らしい部屋づくりができるよう支援している。夫の遺影に職員がみかんのお供えをしてくださったと嬉しそうに話されていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置に気をつけたり、トイレ、風呂、居室に目印となる物を飾り、安全に生活できるよう努めている。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)			1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)			1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)			1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)			1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップ に向けて期待 したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	朝夕の申し送りやミーティングを通して理念を確認し合いながら、日々のケアの中で自然に実践できるように取り組んでいる。		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	地域の中のホームづくりを目標に掲げ、地域と共に歩み、日頃の挨拶は勿論、地域の行事への参加など、地域の方々との交流を重視した活動を展開している。		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	積極的にボランティア、見学者の受け入れ、交流等を通じて行っている。		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	行政関係者、ご家族、民生委員、管理者、職員で構成されており、意見交換などが行われている。会議で出された意見についてはミーティングを開いてサービスの向上に生かしている。		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	町の担当者とは定期的に行き来をし意見交換したり、ホームの運営に関わる助言をもらう等、連携をとっている。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	居室や玄関に鍵をかける事の弊害を十分に理解し、目配り、気配りで見守りを行い、利用者ひとりひとりの行動パターンを把握し見守りのケアを重視している。		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修に参加したり、ミーティングなどで注意、確認し合い、暴力は勿論のこと意識していない部分での言葉かけも虐待になってないかお互い注意しあっている。		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	研修で学ぶ機会を持っているが、今のところ必要な利用者はいない。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	管理者はケアマネジャーと連携しながら、家族・利用者を交えて十分に説明、意見交換を行い理解・同意を得ている。		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	来館時にはコミュニケーションを積極的にとり、日頃から意見を言しやすい雰囲気づくりに努めたり、玄関に意見箱を設置し、それによって得られた意見を会議や連絡ノートで共有し改善に取り組んでいる。		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員が意見を言いやすいように個別面談があり、全体会議やミーティングでの話し合いにつなげている。		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員の生活や現状をふまえた職場環境づくりが行われている。		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修に参加する機会を確保し、資格の取得も積極的に行っている。		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	研修会や交流会などで意見交換を行い、互いの施設見学も積極的に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	利用者や家族が話しやすい環境である自宅に訪問し意見や要望を聞いたり、ホームの見学や体験利用をして安心感を持って頂いている。		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	自宅訪問やホームの見学などを積極的に行い、コミュニケーションを多くとるようにしている。		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者・家族・ケアマネ・管理者で不安や疑問点があれば安心、納得して頂けるまで話し合うよう努めている。		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者は目上の立場であり尊敬の意を持って接するよう心がけている。いつも心に寄り添って互いに信頼しあえる関係づくりに努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族とのコミュニケーションを十分にはかり、信頼関係を築くように努めている。利用者が安心して生活できる環境づくりを家族と共に考え実行している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>利用者や家族の希望があれば積極的に外出の支援をしている。また、親戚や地域の方からの差し入れがあればお礼の葉書を郵送し関係づくりに努めている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は利用者ひとりひとりの性格を把握し、利用者同士が円滑に交流を持てるよう、職員が間に入りコミュニケーションをはかっている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も関係が途切れないように、お盆やお正月には挨拶に回ったり、会社の広報誌など送付している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>普段の会話の中でさりげなく聞き出したり、表情や言葉からも気持ちを察している。また、家族にも協力を得ている。</p>		

24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>普段の会話やコミュニケーションを深めることにより、利用者自身について知る機会を多く持ち、その思いを受け止めるよう努力している。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>観察の必要性を大切にし、利用者の様子の変化に気付くよう、普段の状況把握に努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の要望を聞き入れ、定期的にケース会議を行っている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者も毎日の状況や職員の気づきなど個別に記録し、毎日の引き継ぎで情報共有しており、定期的に見直している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>会社内の他事業所と連携をとり、状況に応じた対応ができるようにしている。</p>		

29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の各種施設や学校、ボランティアなど利用者が関わる事のできる資源と一緒に見つけ出し充実した生活ができるように努めている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に利用者家族の了承を得てホームの協力医をお願いしている。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>デイサービスの看護師と連携をとり、相談・助言を受けている。また、受診機関の看護師とも連携・相談している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期退院のため、家族や主治医と話し合い、協力できる体制づくりに努めている。また、職員はこまめに病室に訪れ、利用者の状態の把握、医師、看護師と連携に努めている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は、家族、主治医と話し合い、事業所全体で支援するよう取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全体会議やミーティングで対応についての確認をしている。緊急時の対応もスムーズに行っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防署立会いのもと、消防訓練を実施しており、消防署主催の研修にも参加している。また、訓練時には近隣住民の協力も得られるよう声掛けている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者は人生の先輩であるということを入念に頭の中に入れ、常に尊敬の意を持ってさりげなく温かい言葉かけに心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりや会話の中で、思いや気持ちをくみとり、本人のペースに合わせている。職員はあせらず、心のゆとりを持って支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者ひとりひとりの性格や行動パターンを把握し一緒に考えながら、その人に合ったペースで支援するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に合わせて、行きつけの美容院に行ったり、一緒に服を買いに行っている。着替える際の服選びも一緒に行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな音楽を流したり、会話などで雰囲気づくりをしている。利用者の食べたい物を献立に入れたり、一緒に味付けや下ごしらえも行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの残食や水分摂取量をチェックし、それぞれに応じた量や形態、味付けを支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれに合わせた口腔ケアを行っている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄表をつくり、ひとりひとりの排泄パターンを把握し、オムツ、尿パットをなるべく使わないようトイレ誘導している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食生活の工夫、水分摂取、適度な運動、腹部マッサージなど行い、自然排便に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者の希望や状態に合わせて、温度の長さを調整している。また、職員が1対1で対応することでコミュニケーションを大切にしている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の安眠に繋がるよう、日中は散歩や日光浴、運動を促している。また、自宅で使っていた布団など使い慣れたもので心地よく休んで頂けるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効能だけでなく副作用まで把握し、服薬後の体調も気をつけている。また、薬をきちんと飲み込んだかまでの確認も行っている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの得意分野、残存能力を生かした活動を支援している。また、気分転換になるよう外出や地域に行事に出かけている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者や家族の希望に基づき支援を行っている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各自の経済状況や能力に応じて支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話の取り次ぎや、本人からの希望があれば、電話をかけたり、手紙の代筆の支援を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>こまめに換気したり、温度、湿度、光の調整を行っている。また、季節ごとに居室やリビングなどの飾りも行っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファにおいては座る場所に配慮し、トラブルがないよう努めている。1人になりたい時は居室で過ごしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたなじみの物や思い出の品を置いたり、写真を飾ったりして居心地のよい空間づくりに努めている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置に気をつけたり、トイレ、風呂、居室に目印となる物を飾り、安全に生活できるよう努めている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない